

苦小牧の漁業を知ろう



漁獲量 8年連続全国一！
ホッキ貝

苦小牧はホッキ貝の漁獲量が全国の約10%を占めており、全国一の漁獲量を誇ることで有名です。
ホッキ貝の正式名称はウバガイと言い、主な産地は東北以北で、大きなもので13cmに達します。水深3~10mの海底で20cm程砂に潜って生活し、5月下旬から6月下旬までに産卵します。
平成14年7月に「市の貝」に制定され、平成19年7月には「苦小牧産ほっき貝」として地域団体商標を取得するなど、苦小牧の地域ブランドとなっています。



苦小牧をもっと知ろう！

苦小牧の
漁業を知ろう

特集

広大な太平洋に面した苦小牧は、現在、工業港湾都市として有名です。また、ホッキ貝の漁獲量が全国1位の漁業のまちとしても知られています。その苦小牧ではホッキ貝以外にはどのような水産物が水揚げされているかご存じでしょうか。苦小牧の漁業を知ってみよう！

苦小牧の漁業の概要

苦小牧の漁港には多くの漁船があり、さまざまな方法で漁を行っています。苦小牧の漁業の概要について紹介します。

沿岸漁業が中心

苦小牧の漁業は、漁港から1時間程度の所を漁場とする沿岸漁業を主に行っています。漁港には77隻の漁船があり、そのうち70隻が

好漁場が形成

苦小牧周辺の太平洋海域は変化

の少ない砂浜地形が続いています。また、黒潮系の津軽暖流と親潮系の千島海流などが苦小牧の沖合いで交錯しているため、好漁場が形成されています。そのため、さまざまな種類の魚貝類が生息し、特にホッキ貝、カレイなどの生息に適した地域です。

主な漁法

漁業では、さまざまな漁法がありますが、苦小牧で実際に行われているものとしては、カレイ・スケトウダラ刺し網漁、ホッキ貝桁網漁、サケ定置網漁などの漁法（下図参照）があります。
そのほか、道東海域でのサケ・マス流し網漁などの沖合漁業も行われています。

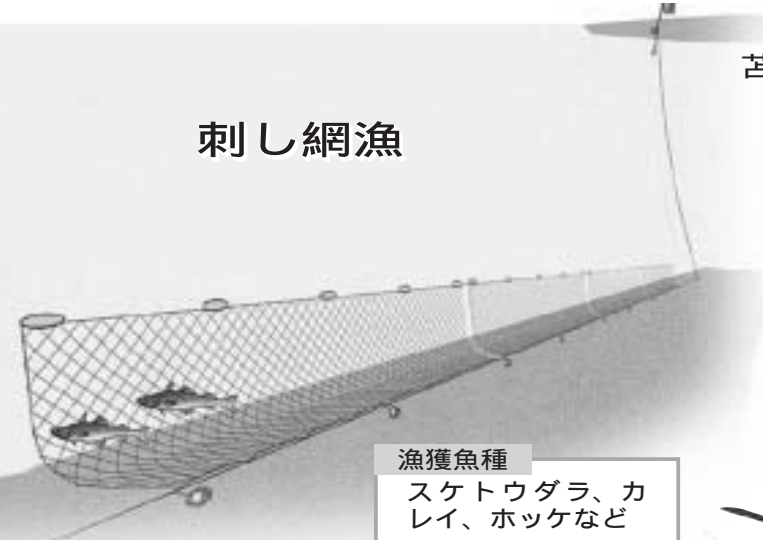
育てる漁業へ

近年、獲る漁業から育てる漁業への取り組みが活発に行われており、苦小牧でも、水生生物の生息地域を拡大し、漁獲種の増大を目的として人工魚礁や人工リーフの設置を行っています。また、マツカワの稚魚の放流、シヤマやサケのふ化放流事業などが行われ、それぞれの漁獲量が増えるなどの効果が表れてきています。

代表的な3つの漁法

苦小牧では主に3つの方法で漁をしています

刺し網漁



漁獲魚種
スケトウダラ、カレイ、ホッケなど

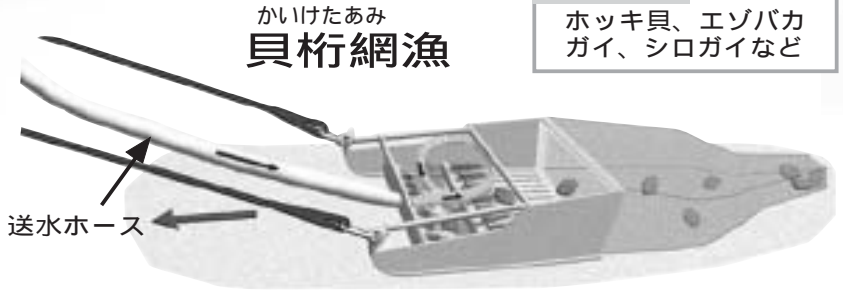
1枚の細長い帯状の網を張り、網目に刺さったり絡まったりした魚を獲る方法です。網は夜のうちに張り、早朝に漁獲するのが基本で、魚の種類により網を張る傾きを変えます。

船上からホースで海水を送り、砂の中にある貝を掘り返して獲る方法です。漁具には前後に2つの海水噴射口があり、前方の噴流で貝を掘り起こし、後方の噴流で貝を網に送りこむことで、貝を傷つけず網に入れることが可能です。



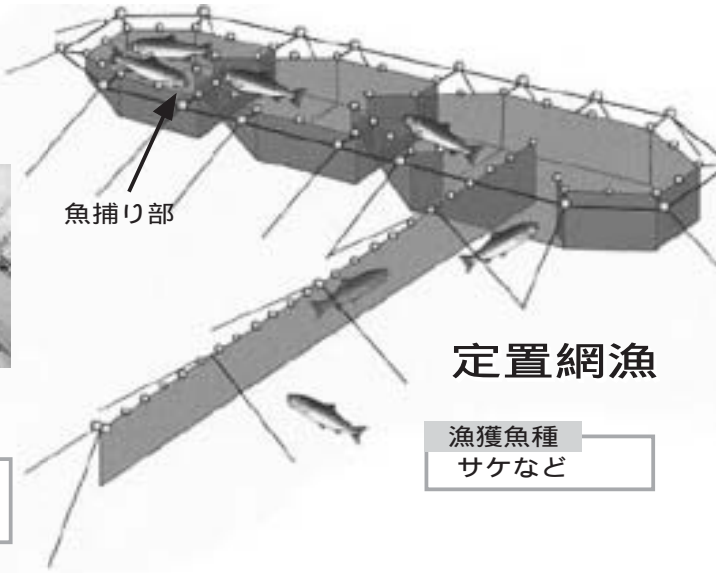
噴流式桁網漁具

漁獲魚種
ホッキ貝、エゾバカガイ、シロガイなど



貝桁網漁

送水ホース



魚捕り部

定置網漁

漁獲魚種
サケなど

海中に複雑な形の網を張り、魚の習性を利用し、奥の魚捕り部まで誘導して獲る方法です。魚群を根こそぎ獲らないことから環境にやさしい漁法といわれています。

図版出典：「新 北のさかなたち」

